

※○数字は図 3-2～図 3-5 の諸要素に対応



写真 3-①

①曲輪（本丸）（※図 3-2）



写真 3-②

②石垣（※図 3-4）



写真 3-③

③外柵形虎口（※図 3-4）



写真 3-④

④本丸正門跡（※図 3-4）



写真 3-⑤

⑤本丸櫓台跡（※図 3-3）



写真 3-⑥

⑥多聞櫓跡（※図 3-4）



写真 3-⑦

⑦曲輪（二ノ丸）（※図 3-2）



写真 3-⑧

⑧曲輪（二ノ丸出丸）（※図 3-2）



写真 3-⑨

⑨空堀（※図 3-3）



写真 3-⑩

⑩蓮池跡（※図 3-3）



写真 3-⑪

⑪曲輪（三ノ丸）（※図 3-2）



写真 3-⑫

⑫大手門跡（※図 3-3）



写真 3-⑬

⑬土塁（※図 3-3）



写真 3-⑭

⑭曲輪（天草丸）（※図 3-2）



写真 3-⑮

⑮曲輪（鳩山出丸）（※図 3-2）

※○数字は図 3-2～図 3-5 の諸要素に対応



写真 3-16

⑩ 竪穴建物跡群 (※図 3-4)



写真 3-17

⑪ 甬道跡 (※図 3-3)



写真 3-18

⑫ 茶臼山 (※図 3-3)



写真 3-19

⑬ 仕寄場 (立花仕寄) (※図 3-3)



写真 3-20

⑭ 破却された石垣 (※図 3-4)



写真 3-21

⑮ 破却された本丸正門跡 (※図 3-4)



写真 3-22

⑯ 破却された本丸埋門跡 (※図 3-4)



写真 3-23

⑰ 骨カミ地藏 (※図 3-4)



写真 3-24

⑱ 佐分利九ノ丞の碑 (※図 3-4)



写真 3-25

⑲ 板倉重昌碑 (※図 3-3)



写真 3-26

鈴木重成建立供養碑 (※図 3-3)



写真 3-27

⑳ 総合案内所 (※図 3-5)



写真 3-28

㉑ 遺構等解説サイン (※図 3-5)



写真 3-29

㉒ トイレ (※図 3-5)



写真 3-30

㉓ バイオトイレ (※図 3-5)

※○数字は図 3-2～図 3-5 の諸要素に対応



写真 3-31

31東屋 (※図 3-5)



写真 3-32

32道標 (※図 3-5)

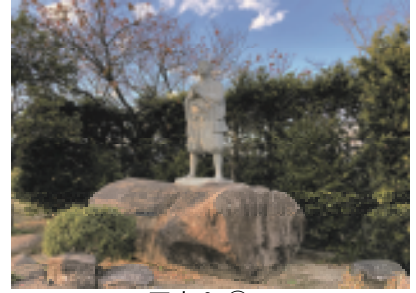


写真 3-33

33天草四郎の像 (※図 3-4)



写真 3-34

34浅間神社 (※図 3-3)



写真 3-35

35八幡神社 (※図 3-3)



写真 3-36

36市立南有馬中学校 (※図 3-3)



写真 3-37

37十字架のモニュメント (※図 3-4)



写真 3-38

38オランダ石火矢台 (※図 3-2・図 3-3)



写真 3-39

39鐘懸松跡 (※図 3-2・図 3-3)



写真 3-40

40井楼台 (※図 3-2・図 3-3)



写真 3-41

41有馬キリシタン遺産記念館 (※図 3-2)



写真 3-42

42駐車場 (大手口) (※図 3-5)



写真 3-43

43駐車場 (国道沿い) (※図 3-5)



写真 3-44

44あこう街道 (遊歩道) (※図 3-5)

2) 構成要素の概要

原城跡の構成要素の概要を表 3-5～3-7 に示す。

表 3-5 指定地内の構成要素（本質的価値を構成する諸要素）の概要

分類		構成要素	概要		
史跡の本質的価値を構成する諸要素	①有馬氏時代に築かれた城郭としての価値	本丸	曲輪	本丸	原城跡の中で最も重要な場所で、石垣で全体が囲われている。
			石垣	石垣	大小あわせ 29 面が残存する。 築石の大部分は、デイサイトや玄武岩など周辺域で産出する火山岩系の自然石であるが、矢の痕跡を残す割面石も混在する。積み方は、布目崩し積みを基本とし、全体的に緩やかな勾配で仕上げられている。石垣の反りは認められない。隅石については、丁寧に加工された割面石を使用しており稜線も鮮明である。 石垣の破却が隅角や天端を中心に行われており、石垣本来の高さについては確認できない。
			外柵形虎口 (雁木、武者溜まり)	外柵形虎口 (雁木、武者溜まり)	本丸の北側にある巨大な虎口帯は、外柵形虎口を複合させた造りとなっており、進入して本丸に至るまでに、少なくとも 5 回の折れを伴う複雑な構造である。 虎口帯内部では 3 ヲ所の門跡ほか、各種の関連遺構を検出している。 (武者溜まり・雁木) 階段を上がり、虎口内を南に折れた先は、武者溜まりと考えられる広い空間となっており、面積は 560 m ² ほどである。 この空間を構成する西側石塁の内側は、約 47m の長大な雁木となっている。
			本丸正門跡 (礎石、階段、石組水路)	本丸正門跡 (礎石、階段、石組水路)	虎口帯の入口付近に位置する。 本丸へ進入する際に、最初の門である。 (礎石) 東西に 2 列、南北に 4 列、計 8 基の礎石が残存し、周囲の石垣との関係性から東向きの櫓門の存在が明らかとなっている。 礎石の間隔は、一間を 6 尺 5 寸 (約 1.97m) とする京間の基準で配置されており、桁行 4 間、梁間 2 間である。 門に向かい中央 2 間が広く、扉が入る構造である。 (石組水路) 正門を示す礎石の西側には、溝底に平瓦を敷く石組水路を検出した。 規模は南北約 9m、幅約 30 cm である。 水路中央から、やや北寄りには溜め枡状の土坑を伴っている。 溝の深さは 17 cm～25 cm であり、南北両側から水が流れ込みやすいよう、勾配と瓦の重ね方が調整されている。 櫓門の雨落ちを排水する目的で設けられた可能性が考えられる。 (階段跡) 正門を抜け、虎口帯の最初の折れに差し掛かる箇所には、階段が設けられている。 一段目は全体幅の半分程度、二段目は南端に一石の踏石が残るが、残存状況が悪く正確な段数などは不明である。
			虎口・門跡	本丸埋門跡 (階段、水路)	武者溜まりを抜け、東に折れた先が埋門跡となっている。 埋門は石垣や塀の下部を削り抜いた構造の門であり、そうした遮蔽構造物は確認できなかったが、史料との照合からこの箇所を埋門に比定している。 門跡における南北の石垣間は約 5.1m である。 (水路) 平坦部では南北の石垣に沿って、幅約 30cm の水路が設けられている。水路の側面には扁平な石材を並べ立て、縁としている。 (階段跡) 門を抜けた先には、階段が設けられている。 破壊の影響が強く確認できたのは 2 段であるが、斜面の長さ、残存踏石の状況などから類推すると 10 段前後あったのではないかと考えられる。
			本丸門跡 (礎石、階段)	本丸門跡 (礎石、階段)	本丸に抜ける最後の門跡である。郭から北側に向け、外柵形の石塁を張り出し、その中に設けられている。 石塁は上部が破壊されており、築石は基底部のみである。 (礎石) 正門と同様に 2×4 列の礎石を配置しているが、うち一石は欠失している。 通路にあたる中央の礎石の芯間は約 3m である。 脇間は約 1.5m、梁間は約 2.7m となっている。 (階段跡) 門を抜け南に折れると、本丸へ上がる階段が設けられているが、踏石は僅かに残存するのみである。 門の通路口正面および階段上がり口の中央付近には、あたかも通路を塞ぐような、大振りの石を投棄した土坑を検出している。
池尻門跡 (礎石、階段)	池尻門跡 (礎石、階段)	本丸の北東にある虎口である。尻口は、正門から続く虎口帯からは独立し、離れた位置にあり、搦手口としての性格があったと考えられる。 虎口を構成する石垣の間口は約 5.6m～6.3m であり、進入口の方がやや狭い。 (礎石) 礎石は、高麗門と考えられる配置となっている。 (階段跡) 門を抜けた先には、4 段の階段が残る。踏石は幅 1m 前後の大型の石材を使用、踏み面は約 1.2m と広めの造りとなっており、上述の巨大な虎口帯に残る階段とは異なる特徴として捉えられる。			

分類		構成要素	概要		
史跡の本質的価値を構成する諸要素	①有馬氏時代に築かれた城郭としての価値	本丸	本丸	本丸西側の石垣を張り出す形で設けられている。石垣の基底部で、およそ東西15m×南北30mの規模である。天端の規模は石垣の破壊により正確さを欠くが、石垣勾配から東西10m×南北25m程度であったと推定される。イエズス会による当時の報告書から、櫓台には天守相当の三層櫓が建てられていた可能性がある。櫓台は南西の口之津方面、対岸の天草を見渡す位置にある。有明海への出入りを行う船は必ず、口之津・天草間の早崎瀬戸と呼ばれる海峡を通る事になるが、往來する船の監視、あるいは有明海へ進入する船からの城の見え方を意識して、櫓台を配置している可能性がある。	
			櫓台	本丸櫓台跡	本丸西側の石垣を張り出す形で設けられている。石垣の基底部で、およそ東西15m×南北30mの規模である。天端の規模は石垣の破壊により正確さを欠くが、石垣勾配から東西10m×南北25m程度であったと推定される。イエズス会による当時の報告書から、櫓台には天守相当の三層櫓が建てられていた可能性がある。櫓台は南西の口之津方面、対岸の天草を見渡す位置にある。有明海への出入りを行う船は必ず、口之津・天草間の早崎瀬戸と呼ばれる海峡を通る事になるが、往來する船の監視、あるいは有明海へ進入する船からの城の見え方を意識して、櫓台を配置している可能性がある。
				隅櫓跡(2箇所)	外柵形虎口の武者溜まり西側の石塁の南端部においては、石塁天端が北東側、すなわち城内の武者溜まりの方へやや突出する状況を確認している。これにより、石塁南端の上部には南北約6m、東西約8mの空間が確保可能となる。位置、状況から隅櫓があったと考えられる。
		その他	多門櫓跡	外柵形虎口の武者溜まり西側の石塁上の調査では、北半部において南北約24m×東西約4mの範囲にわたり、礫が集中的に敷き詰められている状況を確認した。平面の広がり、検出地点などの特徴から、多門櫓を築くための基礎と考えられる。	
			抜け穴跡	本丸の地下にトンネル状の遺構が存在する(構築時期は不明)。過去、本丸が陥没した経緯がある。位置が外れるものの、肥前国高来郡有馬浦原城攻図には、「此穴ヨリ城中ノ者海辺へ出入ス」と海に面した崖に穴が描かれている。	
		本丸周辺	虎口・門跡	田町門跡	本丸の南側にある門。千々石、口之津勢1,400人が守備をしたとされる。一揆勢の黒田、寺沢兩陣への夜襲を執行した場所。
			その他	内馬場跡	本丸と鳩山出丸の間にある長方形の低地で、城内における馬場であり、人員点呼の場所であったといわれる。
			自然地形	曲輪周辺の崖面・斜面	自然の地形を生かして城が築かれており、その地形がよく残る。
		二ノ丸および周辺	曲輪	二ノ丸	二ノ丸は原城跡の中で一番広い区画である。本丸とは空堀及び蓮池で、三ノ丸とは中ノ手門で境をなしている。島原・天草一揆時には有馬、口之津、加津佐、三合村の住民らが守備した。
				二ノ丸出丸	二ノ丸西側の市街地方面に突出した曲輪である。島原・天草一揆では、寛永15年12月27日幕府軍の総攻撃のきっかけとなった佐賀鍋島勢の突入が行われた場所である。
	虎口・門跡		蓮池門跡	蓮池から本丸方面への城道に設けられた門である。	
			田尻門跡	二ノ丸北東に位置し、二ノ丸への登り口に設けられた門である。	
	空堀		空堀	本丸の北西側に残る遺構であり、本丸の守りの固めとして造られたものである。現況の規模は南北約33m、東西約63m、深さ約6mである。北西の隅が閉塞せず下方の谷部へと繋がるが、閉塞した状態で描かれた古図もあるため、後世の崩落の影響とも考えられる。空堀の規模について記した史料として、金子理激が著した「寛永十五年島原之乱図」(南蛮文化館所蔵)があり、これによると「カラ堀 堅五間 横廿間 深サ三間」とある。こうした史料と比較すると、空堀は少なからず広がっている状況であり、経年的な内壁の崩落が起きている可能性がある。	
			その他	蓮池跡	本丸と二ノ丸の間の谷地形の底にあった池である。
	土橋			空堀と蓮池にはさまれた本丸と二ノ丸を結ぶ通路部分である。	
	自然地形		曲輪周辺の崖面・斜面	自然の地形を生かして城が築かれており、その地形がよく残る。	

分類		構成要素	概要		
史跡の本質的価値を構成する諸要素	①有馬氏時代に築かれた城郭としての価値	三ノ丸及び周辺	曲輪	三ノ丸	有馬氏時代には、重臣等の屋敷などがあったと考えられる。 大手門は正面玄関に当たる。 島原・天草一揆時には布津、堂崎村など3,500人が守備をした。一揆後は多くの一揆勢の首がさらされたと言われている。
			虎口・門跡	大手門跡 大手口通路	原城跡の北東に位置する城の正面にあたる門である。 絵図史料によると、東から進入し北へ折れる内枳形で、折れた先に門を描いている場合が多い。 平成20年度の調査において、通路の可能性のある玉石敷きなどを検出している。
			堀切	堀切	三ノ丸北部に位置する。三ノ丸から北西側に伸びる尾根筋を遮断するように切り込んでいる。
			土塁	土塁	三ノ丸東部にある土を盛り上げた防御のための構造である。
			自然地形	曲輪周辺の崖面・斜面	自然の地形を生かして城が築かれており、その地形がよく残る。
	天草丸・鳩山出丸および周辺	曲輪	天草丸	島原・天草一揆の際に、天草各村勢2,000人が守備していたと伝えられる。	
			鳩山出丸	本丸地区の西側に隣接する曲輪である。	
		その他	水の手	鳩山出丸の南西部に位置する。湧水があり、取水が行われたと考えられる。	
		自然地形	曲輪周辺の崖面・斜面	自然の地形を生かして城が築かれており、その地形がよく残る。	
	全地区共通	その他	原城跡出土遺物（陶磁器・瓦など）及び地下に埋蔵されている遺構・遺物	これまでに行われた発掘調査等により、陶器（土師器・肥前系）、磁器（景德鎮・龍泉窯）、瓦（軒丸瓦・軒平瓦・飾り瓦）などが出土している。	

分類		構成要素	概要			
史跡の本質的価値を構成する諸要素	② 島原・天草一揆の主戦場となった戦跡としての価値	一揆時の遺構・遺物等	本丸	建物跡	堅穴建物跡群	本丸の西、櫓台跡の北側に位置し、石垣の下端に沿って検出した遺構である。 1辺2～3m程度の方形プランの堅穴を9区画連なる形で検出した。 堅穴群と石垣の間には1m程度の間隔があり、通路空間の確保を意識して堅穴を設けたと考えられる。 西側は後世の削平による影響を受けている。
				その他	堅穴遺構	本丸の曲輪内において検出している。 島原・天草一揆の際の遺構と考えられるものである。 本丸内部では4基確認しており、本丸中央から東寄りでの検出である。
			土坑		堅穴遺構とともに一揆当時のものと考えられる土坑を検出している。	
			二ノ丸および周辺	建物跡	建物跡	絵図の情報から明らかに建物があったことが判っており、現在、発掘調査による確認を進めている。
				その他	戦闘時の進入口	二ノ丸出丸の西側に位置し、幕府軍が最初に侵入したと伝えられている場所である。
			三ノ丸及び周辺	建物跡	建物跡	発掘調査による顕在化は行っていないが、絵図の情報から、明らかに建物があったことが判る。
				その他	甬道跡	三ノ丸方面の浅間神社そばに残る。幕府軍が原城攻略のため日向の金堀坑夫に甬道（ようどう）を掘らせ城内へ侵入しようとしたが、これを察知した一揆勢は迎え穴を掘り、生薬を焼いたり人糞を注ぐなどして応戦し、この計画を失敗に終わらせた。
			天草丸・鳩山出丸および周辺	建物跡	建物跡	発掘調査による顕在化は行っていないが、絵図の情報から、明らかに建物があったことが判る。
		その他		茶臼山	天草丸の南西にあった小高い山である。現在は南有馬中学校運動場の一角に土塁状の高まりがわずかに残る。	
		仕寄場地区	仕寄場	黒田仕寄 寺澤仕寄 鍋島仕寄 有馬仕寄 松倉仕寄 立花仕寄 細川仕寄	二ノ丸出丸および北三ノ丸に接する低地一帯に各藩の軍勢が仕寄場を構えた。 仕寄り場には城中からの攻撃を防ぐための竹束や柵、城内の様子を伺うための井楼などが設けられた。	
		その他の地区	その他	大江の浜	昔、キリシタンの礼拝堂が建てられていたといわれ、一揆の時は有馬五郎左衛門と山田右衛門作が会見したところで、黒田藩船28隻の船繋場の1つであった。	
		全地区共通	その他	地下に埋蔵されている遺構	本丸検出の堅穴や土坑などがある。本丸以外の史跡全体では今後調査を進める中で確認を行っていく。	
			遺物	原城跡出土遺物	これまでの発掘調査等により、メダイ・十字架・ロザリオ珠などのキリシタン関連遺物、砲弾・銃弾などを検出している。	

分類		構成要素	概要			
史跡の本質的価値を構成する諸要素	②島原・天草一揆の主戦場となった戦跡としての価値	一揆後の戦後処理を示す遺構等	本丸	石垣	破却された石垣	島原・天草一揆後の幕府方による破城行為として、天端や隅石など一部を破壊し、壊した石垣石材と土砂によって城を土中に埋没させている状況を確認した。
				門跡	埋め尽くされた本丸正門跡	島原・天草一揆後の幕府方による破城行為として、破壊され埋められていた。
			埋め尽くされた本丸門跡		同上	
			埋め尽くされた本丸埋門跡		同上	
			埋め尽くされた池尻門跡		同上	
		三ノ丸及び周辺	門跡	破却された大手口	平成 20 年度の調査で大手口の通路を破却したと考えられる礫の大量投棄を確認している。	
		一揆後の供養に関する石碑等	本丸	石仏・石碑など	骨カミ地藏 (1766)	本丸正門付近にある石垣の上に立つお地蔵様。明和三年(1766)、有馬願心寺の注警住職と各村の庄屋らによって、原城に散乱する一揆の遺骨を集めて供養したとされる。
					佐分利九ノ丞の碑 (1786)	因幡藩(鳥取県)池田侯の家臣で、島原・天草一揆の使者として派遣された人物で幕府軍の総攻撃にあたり、細川軍の先陣をきって進撃したが、本丸において遂に倒れた。彼は刀を採り、傍らにあった自然石に自らの姓名と年月を彫り込んだものと伝えられ、その自然石がそのまま彼の墓碑となっている。天明 6 (1786) 年、その子孫因幡銃隊長が副碑を建てた。
			三ノ丸及び周辺	石仏・石碑など	板倉重昌碑 (1681 制作 /1798 建立)	板倉重昌は京都所司代板倉勝重の三男で、一万二千石の大名であり、将軍家光の談判衆であった。一揆鎮圧のため上司として登用され、寛永 14 年 12 月 9 日有馬入りするが、翌年 1 月 1 日に原城総攻撃を執行し、討死した。碑は延宝 9 年(1681)に孫である重道の依頼によって制作されたが、この時は建立が許可されなかった。さらに百年以上が経過した寛政 10 年(1798)、子孫の板倉八衛門勝彪らにより建立が叶っている。
		その他の地区	石仏・石碑など	鈴木重成建立 供養碑 (1648)	八幡神社境内にある島原・天草一揆の供養碑。幕府方として参戦した鈴木重成により、一揆終結後 10 年が経過した慶安元年(1648)、民心の安定を図るため建立されている。	

表 3-6 指定地内の構成要素（本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素）の概要

分類		地区	構成要素	概要	
史跡の本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	史跡の保存・管理・活用に有効な諸要素	解説のための施設及び工作物など	本丸	VR	本丸内に8箇所のVRビューポイントを整備。築城当時と一揆当時のイメージを映像で提供している。
			本丸周辺	総合案内所	ガイドの受付、パンフレット配布及びタブレット端末の無料貸し出しなどを行っている。
			全地区共通	遺構等展示 遺構等解説サイン	門跡内部の透水性真砂土舗装による遺構保護および表示整備。 埋門跡の破却工程の三段階表示整備。 各遺構の解説板を整備。
		便益施設	本丸	トイレ	本丸埋門南側にトイレ、空堀南側にバイオトイレを設置している。
				東屋	本丸南東側に設置している。
			二ノ丸および周辺	広場（田尻口）	田尻口付近にある小規模の広場。
	全地区共通	道標、マナーサイン、ベンチなど	各種便益施設を史跡各所に設置している。		
	管理施設	全地区共通	道路、柵、外灯、電線、水道、側溝など	道路やその付帯施設が史跡内にあり、電線・水道等が引かれている。	
	その他の諸要素	原城跡に先行する時代の埋蔵文化財	全地区共通	築山遺跡（縄文時代）	文化財保護法による周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。仕寄場の西側付近に位置する。
				浦田観音東側遺跡（弥生時代）	文化財保護法による周知の埋蔵文化財包蔵地となっている。三ノ丸に重複する。
		神社・石碑・石造物など	本丸	天草四郎の墓	墓石は西有家町にある民家の石垣の中に埋もれていたもの。その後ゆかりの深い原城に移し供養したと言われている。
				天草四郎像	南島原市出身の彫刻家北村西望の作。
				顕彰碑	昭和32年、一揆から320年目に、一揆勢、幕府両軍戦死者のみたまを慰め、史跡を顕彰するために設置されたもの。
				キリシタン墓碑	本丸の池尻口付近にある2基のキリシタン墓碑。いずれも板状の伏碑である。市内の西有家町と北有家町から持ち込まれたとされる。
		三ノ丸および周辺	浅間神社	浅間神社	有馬晴信の若君が誕生した当時、乳不足であったので、家臣山崎飛騨守が心配のあまり観音菩薩（浦田観音）の祠をつくり祈願したところ乳が出るようになったと言われ、以来乳出安産の守り本尊となった。一揆の時に破壊されたが、一揆後寛永16年に再建された。
				八幡神社	鈴木重成建立供養碑がある。秋の大祭では、伝統芸能「大江浮立」が奉納される。
		その他の地区	金毘羅神社	金毘羅神社	天草丸付近にある大江名の神社である。

分類		地区	構成要素	概要		
史跡の本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	その他の諸要素	その他	学校	その他の地区 市立南有馬中学校	昭和 22 年、学制改革により南有馬小学校より独立分離。昭和 23 年、教室不足のため八幡神社敷地に川棚工員宿舎を移転改築して校舎とした。現在の校舎は昭和 51 年に落成している。校庭の南側に茶臼山跡がある。	
			宅地	天草丸・鳩山出丸 および周辺	宅地	指定地内の一部に宅地がある。
				仕寄場地区	宅地	
				その他の地区	宅地	
			農地	本丸周辺	畑・果樹園	指定地内に農地（田、畑、果樹園）があり、耕作されている。 作業小屋やビニールハウスなどの工作物も見られる。
				二ノ丸	畑	
				二ノ丸出丸	畑	
				三ノ丸および 周辺	畑	
				天草丸	畑	
				鳩山出丸	畑	
				仕寄場地区	田・畑	
				その他の地区	田・畑・果樹園	
			工作物	本丸	十字架の モニュメント	昭和 32 年に設置された観光目的のモニュメントである。
			森林 など	全地区共通	樹木、自然林など	曲輪周縁の法面に自然林が残るほか、樹木が点在する。
				三ノ丸および 周辺	社寺林	神社の社寺林がある。
				その他の地区	社寺林	
			地質 ・地形	全地区共通	島原半島ジオパーク	原城跡が立地する台地の露頭では、基盤の口之津層群と約 9 万年前の阿蘇火山噴火による大規模火砕流（Aso-4 火砕流）の堆積を観察することができ、地質学的にも価値の高い場所である。 世界ジオパーク認定を受けている「島原半島ジオパーク」の重要ポイントの一つに挙げられている。
				二ノ丸	同上 地層露出箇所	
				その他の地区	同上 地層露出箇所	

表 3-7 指定地周辺の構成要素の概要

分類		構成要素	概要	
指定地周辺域を構成する諸要素	史跡の本質（築城時期）に関わりの深い要素に	有馬氏時代の登城道など	原城跡への登城道 原城跡の北側から続く城内へのアクセス道。	
			町屋跡 原城跡の北側には浦田の集落が、南西側には大江の集落が広がっており、それらの一部には当時の町割りを残している箇所があると考えられる。	
			殿様道 浦田から大手口方面へは、現在は一部残っていない箇所もあるが、かつては里道が通っており地元住民から殿様道と呼称されていた。	
		原城跡からの景観	海に開けた眺望など 原城跡からの海に開けた眺望などは景観的価値が高く、また、海城として築かれた原城跡の歴史や、立地的な特性の理解にも貢献する価値を持つ。	
	史跡の本質（一揆時）に関わりの深い要素に	一揆時の陣跡推定地など	陣跡	幕府軍が原城を攻略するために陣を構えた一帯である。寛永 15（1638）年 2 月中旬頃の布陣を見ると、有馬商業高校跡地付近が本陣跡となっており、松平伊豆守（信綱）、板倉主水佑（亡くなった重昌の長男）などが布陣している。原城より大江の集落を挟んで、すぐ西側の丘陵には寺沢兵庫頭（堅高）、鍋島信濃守（勝茂）らが陣を構えていた。大江の浜には黒田番船、浦田には細川番船がいた。名残として、陣場、築山といった地名が残る。
			仕寄場	
			オランダ石火矢台	
			石火矢台	
			築山	
			鐘懸松跡	
		井楼台		
	原城跡からの景観	陣跡方面への景観など 原城跡から西側の陣跡方面への景観などは、島原・天草一揆において原城が幕府軍に攻囲された状況を体感し、我が国の重要な歴史の理解に貢献する価値を持つ。		
	史跡の保存・管理・活用に有効な諸要素	解説のための施設	有馬キリシタン遺産記念館 「原城跡」をはじめ、「日野江城跡」、同時に信仰を支えた教育機関「有馬のセミナリヨ」などを紹介しており、長崎におけるキリスト教の伝来と繁栄、激しい弾圧、キリシタンの潜伏から復活など一連の歴史を学ぶことができる。	
		便益施設	駐車場（大手口）	原城温泉 真砂の駐車場やその周辺にある駐車場。原城跡観光のメイン駐車場として利用されている。駐車台数：乗用車 144 台、身障者用 1 台
			駐車場（国道沿い）	国道 251 号線沿いに設置された駐車場。原城跡観光やドライブ休憩の駐車場として利用されている。駐車台数：乗用車 7 台、バス専用 7 台、身障者用 1 台
			広場（田尻口）	田尻口付近にある小規模の広場。
		あこう街道（遊歩道）	原城温泉 真砂（駐車場）から原城跡まで続く、海沿いにある遊歩道である。景観が良く海側から原城跡を望むことができる。	
	その他の諸要素	原城をとりまく景観	史跡周辺からの原城跡に対する景観・眺望 周辺の様々な箇所から原城跡が望める。遠景ではあるが関連する日野江城跡と相互眺望が望める。	

3) 石垣の分類

本質的価値を構成する諸要素のうち本丸跡の石垣であるが、城郭本来の石垣として近世初期に積まれたもの全てが、一揆後の破却により石垣上部を崩されている状態である。このほか本丸には、一揆直後の破却に伴って積まれた石垣、江戸中期の耕地整理の際に積まれた石垣、戦前戦後の道路整備などで積まれた石垣などがある。

ここでは平成23年3月策定の史跡原城跡整備基本計画で用いた石垣分類をベースとして、保存整備の状況ならびに同計画策定以降の調査整備の状況も踏まえて、本丸石垣の分類を示す。

(表3-8、図3-6参照)

基本分類として、本丸の石垣を以下のⅠ～Ⅳ類に大別する。またⅠ類は保存整備の状況、調査による確認状況を踏まえてⅠ-a類～Ⅰ-d類に細別する。

Ⅰ類 … 織豊系の技法を用いて積まれた城郭本来の構造を構成する石垣


- Ⅰ-a類 … 破却された石垣上部を植生土のう積みにより保存整備した石垣
- Ⅰ-b類 … 破却された石垣上部に対して保存整備を実施していない石垣
- Ⅰ-b'類 … 保存整備を実施していない石垣で、全体にズレがみられる石垣
- Ⅰ-c類 … 根石等が確認される可能性がある石垣
- Ⅰ-d類 … 城郭の構造上、築城時には存在したと考えられる石垣



Ⅱ類 … 島原・天草一揆直後の破却に伴い積まれた石垣

Ⅲ類 … 江戸時代中期の耕地整理に伴い積まれた石垣

Ⅳ類 … 農業改善事業や道路整備に伴い積まれた石垣

表3-8 石垣の分類

Ⅰ類 織豊系の技法を用いて積まれた城郭本来の構造を構成する石垣		
石垣の特徴、イエズス会宣教師の書簡や報告書などから慶長4年(1599)～9年(1604)の間に積まれたと考えられる石垣。寛永14年(1637)～15年(1638)に起こった島原・天草一揆の後に徹底した破却を受けた。		
<p>【Ⅰ-a類】 破却された石垣上部を植生土のう積みにより保存整備した石垣</p>	<p>島原・天草一揆の後に破却された石垣(以下「残存城石垣」という)で、発掘調査及び石垣保護工事によって、破却石材等を除去し、石垣の上端には植生土のう等による石垣天端の安定化措置を施した石垣。 (石垣番号15の石垣等)</p>	
		(石垣番号15)

<p>【I-b類】 破却された石垣上部に対して保存整備を実施していない石垣</p>	<p>残存城石垣で、発掘調査によって石垣上面及び周辺を覆っていた破却石材等を除去した状態で土のう等による石垣天端の安定化措置はなされていない石垣や、江戸時代に石垣の天端に破却された築石や栗石を用い、積直しがされた石垣(石垣番号12、石垣番号28等の石垣)。</p>	 <p>(石垣番号12)</p>
<p>【I-b'類】 保存整備を実施していない石垣で、全体にズレがみられる石垣</p>	<p>残存城石垣ではあるが、後年の通路整備等の影響のためか、石垣全体にズレ等を生じている石垣。発掘調査はなされておらず、また、石垣は現在安定している(石垣番号7等の石垣)。</p>	 <p>(石垣番号7の石垣)</p>
<p>【I-c類】 根石等が確認される可能性のある石垣</p>	<p>残存城石垣で、地上遺構としては遺存しないが、今後の発掘調査において、根石や根石の抜き取り痕が確認される可能性のある石垣(石垣番号31の北西付近)。</p>	
<p>【I-d類】 城郭の構造上、築城時には存在したと考えられる石垣</p>	<p>これまでの発掘調査において、石垣の分布は確認されていないが、城郭の構造や絵図等から存在していたと推定される石垣(石垣番号41等の石垣)。</p>	

Ⅱ類 … 島原・天草一揆直後の破却に伴い積まれた石垣

本丸正門跡の前面の広場に分布する石垣(石垣番号36)等で、破却した石材を用い、破却時に造られたと考えられる石垣。



(石垣番号36の石垣)

Ⅲ類 … 江戸時代中期の耕地整理に伴い積まれた石垣

宝暦年間(1751～1762)頃の耕地整理等に伴い破却された比較的小振りの築石や栗石を利用し江戸時代に積まれた石垣(石垣番号6の石垣)。



(石垣番号6の石垣)

Ⅳ類 … 農業改善事業や道路整備に伴い積まれた石垣

昭和6年(1931)の原城跡逍遥道路や戦後の道路整備、農業改善事業等に伴い積まれた石垣(石垣番号31の石垣等)。現在、骨カミ地蔵が祀られている前面の石垣(石垣番号30等の石垣)も原城跡逍遥道路整備後に積まれたと考えられる。



(石垣番号31の石垣)

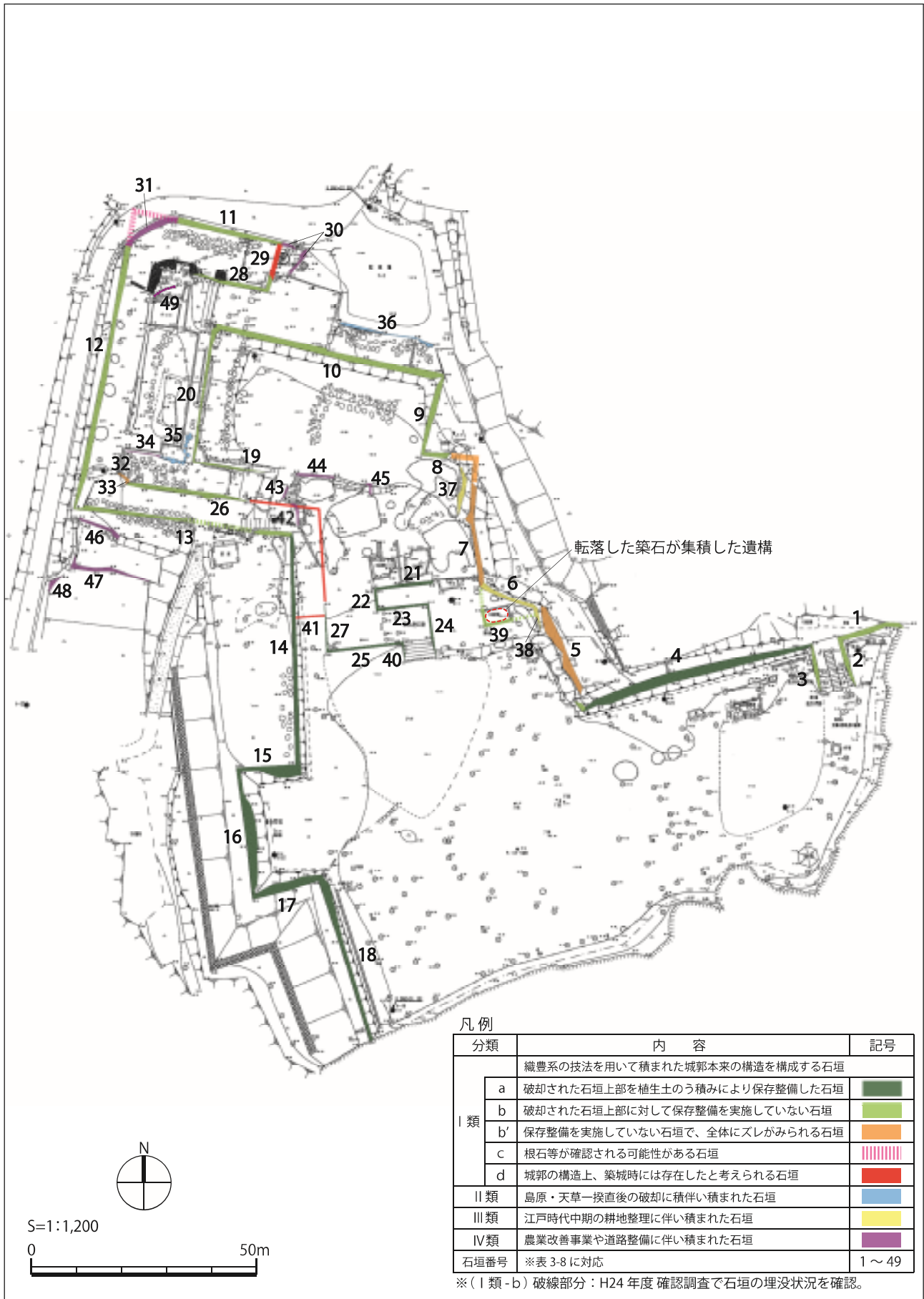


図 3-6 石垣分類図